

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県北会場＞

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 研修を通して、育成支援がどうあるべきかを学ぶことが子どもの生涯発達への支援につながることが分かりました。発達の過程は個人差もあり、子ども一人ひとりが支援員との遊びの中でいろいろなことを学び豊かな心を育てていけることや、集団生活の中で他の子どもたちとの触れ合いや信頼できる関係を育てていくことも発達支援につながると分かりました。自分を受け止めてくれる人がいることが、発達の特性や育ちの援助に大切な支援であることを理解しました。
- ◆ 子どもの発達段階の児童期に関わる私たちの仕事は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、発達の個人差を踏まえて育成支援しなければいけない。子どもの遊びは生活の一部であり、遊びを通して運動能力や社会性、創造性を発達させていく。子どものやりたい気持ちを理解し、子どもにまかせてみることも必要である。一人ひとりの心身の状態を見極める目をもち、時には専門機関と連携をとりながら、子どもが安心して過ごすことができる児童クラブでありたい。
- ◆ 子どもは発達過程のなかで、運動や感情、言語、社会性などのたくさんのこと学びながら成長している。乳児期から青年期まで、どの時期でも親や家族などのアタッチメントが大切だと思いました。子どもたちが安心感をもてるように温かい目で見守って支援していくならと思いました。また、発達には個人差があり、一人ひとり違うのでそれを把握しながら支援していきたいと思います。
- ◆ 子どもの発達を理解するためには、身体の様子、言葉、表情、人との関係、置かれている環境をよく見て、多様な支援の手掛かりにしなければならないことを学んだ。私たち支援員の言葉ひとつで、子どものやる気を高めたり、困ったことを打ち明けてくれたりする信頼につながる。日々の遊びを通して、子どもたちの可能性が広がるように支援していきたいと思う。
- ◆ 前半は子どもの発達を理解するうえでの基礎的概念から発達段階の各時期区分とその特徴を学び、発達に影響を与える“遊び”的意義や、生活面での内容が子どもの社会性の発達につながる重要なこととして再認識させていただきました。子どもへの対応に関する演習では、学校との連携の大切さにも触れ、一人ひとりみんな違う発達の進度や進み方に沿った支援を生涯発達という視点から捉えながら、今後の支援に役立てていきたいと思いました。